

低温着火による火災に注意

問 中野消防署 ☎(22) 3386



お宅のコンロ、大丈夫ですか？

- 台や壁にひび割れなどはないか
- ステンレス板に変色はないか
- 大きな鍋でコンロの炎が壁に接触していないか
- コンロに鍋をかけた時、壁に接触していないか



火災の発生件数が増加する季節。中野消防署管内では「低温着火」による火災が続いています。

「低温着火」とは、コンロ周りの壁、炉台、ストーブ周り、屋根・壁の煙突貫通部から周囲の木材に熱が伝わり、長い間に木材の水分が徐々に減少して炭化させ、そこにさらに熱が加わると突然発火する現象です。

コンロやストーブの煙突などの熱源と壁などの間に十分な距離があるか、熱を遮断する対策がとられているか確認ください。

人口の動き

面積：112.18km²
 人口：42,664人 (－48)
 男：20,648人 (－16)
 女：22,016人 (－32)
 世帯数：15,649戸 (－4)
【2019年3月1日現在】
 () は前月比。
 2015年国勢調査を基に推計。



#follow me

ページ

03 キラリ★中野のチカラ

04 特集 つなぐ 行政相談を利用
してみませんか

08 子どもを守るために

09 信州なかの日和 / 池田市長のわくわくレポート

10 2019年度予算

12 エンディングノート / 小学校統合準備委員会だより

13 職員人事

14 生き生き！健康メモ / 保健だより

15 市民リレー元気の輪 / 行ってみよう！やってみよう！シニア情報

16 子育て案内

17 子育て支援センター行事予定 / わが家のアイドル

18 まちかどトピックス

20 暮らしの情報掲示板

28 文化なかの (公民館報)

30 図書館情報

31 博物館だより

32 夢 / 広報クイズ

今月の表紙



表紙イラスト制作者
たなかさおり
田中沙織さん

コメント
正直、表紙依頼を受けるまで、行政相談委員の存在すら知りませんでした。活動内容を調べ、中野市で暮らす住民からのさまざまな相談を受け、より良く暮らしやすい地域にする為の架け橋のような、頼もしい存在であると感じました。表紙は、相談したことで問題が解決した人々と、春の明るい雰囲気イメージして描きました。



原型作りは、何もないところから自由に形を生み出す工程。一番楽しい瞬間です。

-Profile- いけだ しょうご

中野市出身、在住。1984年生まれ。幼い頃から芸術に興味を持ち、高校卒業後は阿佐ヶ谷美術専門学校でアートについて学ぶ。2007年、「創作人形工房 悠」を設立。信州なかの土びなの里から作品を発信する創作人形作家として活動している。モチーフは干支や縁起もの、動物など多種多様。作品には浮世と俗世の両方を盛り込んでおり、優しいけれど面白い個性のある表情の人形を作っている。オリジナルの型にこだわり、これまでに作成した原型は約100種におよぶ。



▲「ちょうど工房を始めた頃にネコが住み着いた。そのネコをモデルにした作品もあります」ネコには特に思い入れがあるそう。



▲工房では一日中、土人形製作や絵画などに没頭。「一人で集中できる時間が好き。試行錯誤の日々です」

創作人形作家

池田 翔吾 (新野)

「絵 を描いたり芸術に親しんだりしていた家族から影響を受けてきました。専門学校を卒業後、地元の伝統工芸からヒントを得て独自に土人形を作りたいと思うようになりました。」

高校卒業後、中野市を離れ美術学校で造形や絵画、イラストなどアートを学んだ池田翔吾さん。地元に戻り創作人形作家という現在の活動を始めたきっかけについてそう話してくれた。

「伝統的な土人形作家の奈良さんと西原さんからは大きな影響を受けています。表情や着物の描き方、作品の持つ物語性に伝統。それらはとても偉大で、私にとって目標でもありますが、比べられると苦しいところも。だからこそ、伝統には縛られない自分のオリジナルの人形を作りたいこうと思えました。」

自分にしか無いものをどう出していくかを模索しているという。そのために土人形だけでなく、アート雑誌や古い画集、映画など幅広くインスピレーションを受け、活動に生かしている。

「最近石粉粘土を使って人間をテーマにした立体作品にも取り組んでいます。色んなことに挑戦し、さまざまな方向からアプローチし、表現していたらいいですね。」

「工房悠の『悠』は悠久の悠。皆さまに未永く愛されることを願って名づけました。今後、創作人形について、もっとたくさん皆さんの皆さんに知ってもらい、もっと喜んでいただけるもの、親しんでいただけるものを作っていければと思います。」